AIで進化する特許実務：業務設計と反復処理が生み出す新プロセス

AIを活用した特許調査の実務 (無効資料調査の例)

時間の使い所を「業務設計」に集中

目的や観点、人間が確認する「人間ゲート」を事前に明確化する。

AI連携（MCP）による試行錯誤の高速化

チャット対話の中で試し検索や条件変更をスムーズに反復実行できる。

「面」でのスクリーニングと評価の反映

材料や構成だけでなく機能・作用まで多次元で捉えて抽出する。

AIを活用した特許明細書作成の実務

着手前の「設計書」作成で手戻りを削減

用語辞書や論点を事前に確定させ、後工程の整合性コストを減らす。

工程間の「申し送り」によるスムーズな接続

決定・保留・変更事項を各工程の終わりに残し次工程へ渡す。

修正理由のルール化によるAI出力の深化

修正履歴と理由を蓄積して規的化し、AIの出力精度を高めていく。

Gemini Notebook